

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|---------------------------|----|---------------|
| ○事業所名 | 児童発達支援・放課後等デイサービス こんていにゅう | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 11月 10日 | | 2026年 1月 12日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 4 | (回答者数) 3 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 11月 10日 | | 2025年 12月 10日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 11 | (回答者数) 11 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 12月 12日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 幼児期の発達特性を踏まえ、子どもさん一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、日々の支援に反映しています。職員間で情報共有を行い統一した支援を提供することで安心して通所できる環境作りに努めています。 | 支援の質を高める為、日々の支援内容や子どもさんの様子について職員間で振り返りを行い支援方法の見直しや改善に繋がっています。 | 子どもさんたちが、より主体的に活動できるように、教材や活動内容の見直しを継続して行っています。職員研修やケース検討会議で専門性の向上を図ると共に、子どもさんの発達を多面的にとらえた支援が行えるよう振り返りをより充実させ、家庭との連携強化につなげていきたいと考えています。 |
| 2 | 個別支援計画をもとに、日々の支援内容を検討し、子どもさんの成長に応じた支援を行っています。小集団ならではの細やかな支援を行い、五領域に添った支援、育成に取り組んでいます。 | 個別支援計画をもとに支援を行い、必要に応じて見直しを行っています。支援の資質を維持、向上させるため日々の支援の振り返りやミーティングを行い子どもさんの様子や支援方法を職員間で共有しています。 | 取り組んでいる支援を維持しながら、支援内容の振り返りや職員研修を更に充実させていきたいと思ひます。保護者様への情報提供をより充実させ、子どもさん一人ひとりにあった支援に繋がってきたいと考えています。 |
| 3 | 保護者様と連絡帳や送迎時の引継ぎ時のやりとり、また電話連絡や面談を通してコミュニケーションを大切にしご家庭と連携した支援を心がけています。職員同士も日々の申し送りや会議を通して情報共有を行い支援の一貫性を大切にしています。職員がチームとなり保護者様と共に子どもたちを見守る体制作りにも努めています。 | 保護者様との日々の情報共有を大切に、連絡帳や送迎時の引継ぎ、電話連絡や面談を通して連携を図っています。職員それぞれの経験やストレンクスを活かし、チームで支援内容を検討しています。 | 事業所内研修や外部研修への参加、また地域のこども部会への参加を通して職員の資質向上に努めています。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 職員の経験年数や専門性に差があるため、支援方法の理解や実践にばらつきが生じることがあります。今後は研修やOJTを通じて、支援の質の均一化を図る必要があります。 | 定期的なミーティングや研修を通じて改善を図り、より質の高い支援につなげていきたいと考えています。 | 支援方針や基本的な支援方法の共有を進めるとともに、職員間での情報共有や意見交換の機会を設け、学び合いを促進する必要があります。また、研修や日々の振り返りを通して、支援の質を一定に保てるよう取り組んでいく必要があります。 |
| 2 | 子どもさんの発達や興味関心の多様化に対し、活動内容や教材の選択肢が十分でない部分があり、さらなる工夫が必要と考えています。 | 子どもたち一人ひとりの発達段階やそれぞれの興味関心の幅が大きく、多様なニーズに応じた活動や教材の選択肢が十分でない部分があると考えています。 | 発達段階や関心に応じて複数の教材、活動を用意します。デジタル教材や実物教材を組み合わせ子どもたちが選択できる環境を整えるように努めます。 |
| 3 | 業務が特定の職員に集中する傾向があり、効率化が課題となっています。業務分担の見直しを行い、働きやすい体制づくりを進めます。 | 業務が特定の職員に集中しないよう、業務内容や担当の整理・見直しを行い、負担の偏りを把握する工夫が必要であると考えています。あわせて、職員間での情報共有や協働体制を強化し、業務の効率化を図っていく必要があります。 | 業務が特定の職員に集中しないよう、業務内容や担当の整理・見直しを行い、負担の偏りを把握する工夫が必要であると考えています。あわせて、職員間での情報共有や協働体制を強化し、業務の効率化を図っていく必要があります。 |